

産地紹介

1. 坂東市の位置

首都東京から直線距離で 50km 圏内の茨城県南西部に位置し、首都圏への生鮮野菜の供給基地として、農業が盛んな地域です。

関東最大の利根川沿いにあり、自然環境に恵まれた広い農地で、都内並びに近郊の皆様の台所を担う生鮮野菜を生産出荷しています。

2. 坂東市野菜等の産出量

夏ねぎ・春レタスは全国1位を誇る産出量となっています。岩井農業協同組合で生産される「夏ねぎ」・「春レタス」は、茨城県の銘柄産地、また茨城むつみ農業協同組合で生産される「冬春トマト」・「春はくさい」は銘柄推進産地の指定を受けています。



たのしい給食

坂東市の給食には、地元の農産物が使われています。地元の農産物を使った給食にはいろいろなメニューがあり、地元の新鮮な食材を楽しみながら味わうことができます。



チンゲンサイ

ちゃんぽんじる



小麦粉

パン（茨城県産小麦粉使用）

主な収穫シーズンカレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春レタス												
秋冬レタス												
夏ねぎ												
秋冬・春ねぎ												
キャベツ												
春はくさい												
秋冬はくさい												
トマト												
チンゲンサイ												
ほうれん草												
セルリー												



やさいの里

坂東市

Vegetable Village
Bando City



坂東市マスコットキャラクター

将門くん



坂東市あひるキャラクター

ねぎじい ねぎばあ



坂東市農業振興協議会

坂東市役所 岩井農業協同組合 茨城むつみ農業協同組合
坂東地域農業改良普及センター 茨城県立農業大学校

野菜

セリ

香りの良さやシャキシャキの食感が特徴です。市場からの品質評価が高く、産地自慢の一品です。



ナス

成分のほとんどが水分で、体を冷やす作用を持っています。また、皮の色素ナスニンには抗酸化作用があるアントシアニンの一種です。



カリフラワー

ビタミンCを多く含んでいます。特に芯には2倍含まれています。



果物

巨峰 (時期: 8月~10月)

ポリフェノールが豊富で、アントシアニンが多く含まれています。動脈硬化に効果があり、血流改善の働きもあります。



シャインマスカット (時期: 8月~10月)

ブドウの中でも特に甘い味わいの品種で、果皮が薄く皮ごとパリッと食べられます。

チンゲンサイ

春と秋が出荷の最盛期です。栄養豊富で、油との相性がいいので、炒め物がオススメです!



はくさい (春はくさい: 茨城県銘柄推進産地)

春はくさいはみずみずしく、秋冬はくさいに比べて柔らかさが増すため、サラダなどの生食にもおすすめです。



レタス

(春レタス: 茨城県銘柄産地指定)

葉肉がやわらかくシャキシャキの食感が魅力です。春は「サラダ」で、冬は「しゃぶしゃぶ」がおすすめです。



JA茨城むつみ
イメージキャラクター
むつみん



ほうれん草

栄養バランスに優れ、ビタミンU、βカロチン類や食物繊維を多く含んでいます。



サニーレタス

葉が薄く、柔らかくて苦みが少なく、カロテンを多く含んでいます。



スイートコーン

食物繊維、ビタミンB1・B2・Eを含んでいます。胚芽の部分にはリノール酸が含まれています。



坂東市の野菜たち

Vegetable in Bando City

キュウリ

緑が濃く、やわらかくて「パリッ」といけます。一夜漬けにも最適です。



ブロッコリー

ビタミンCやミネラル分が豊富で栄養満点な野菜。茎や葉にも栄養があります。



グリーンカール

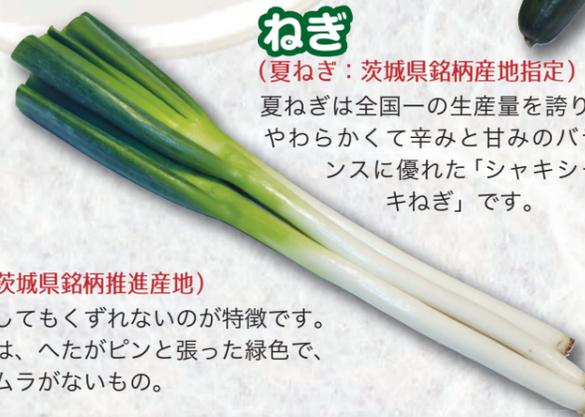
葉先がカールしているのでボリューム感が出せます。葉が広いので肉などを巻いて食べるようなことも出来ます。



ねぎ

(夏ねぎ: 茨城県銘柄産地指定)

夏ねぎは全国一の生産量を誇り、やわらかくて辛みと甘みのバランスに優れた「シャキシャキねぎ」です。



トマト

(冬春トマト: 茨城県銘柄推進産地)

甘みが強く熟してもくずれないのが特徴です。選ぶポイントは、へたがピンと張った緑色で、全体の赤みにムラがないもの。



特産品



小麦粉 (ゆめかおり)

「ゆめかおり」は麦のたんぱく質含有量が高く、他の小麦粉と比べてグルテンが強いため、もちりとしたパンを作ることができます。



さしま茶畑



さしま茶

猿島地域で作られたお茶は「さしま茶」と呼ばれ、日本で初めて海外へ輸出された歴史のあるお茶です。



米

水と緑に包まれた豊かな田園都市の環境を守るため、自然環境に配慮して、土づくりからこだわり、化学合成農薬・科学肥料を慣行の50%以下にして栽培しています。